

グラントワ応援団通信

平成27年

10月24日発行

第42号

ボランティア会会則について

ボランティア会会長

石田 彰

「この会は、グラントワが行う文化事業を支援し、同時に会員個々が生きがいを得ることを目的とする」(会則第2条)

ボランティア会会則に先行する「グラントワ応援団規約」(平成17年4月1日施行)があります。応援団は、ミュージアム・スポーツ会員、ホール友の会会員、ボランティア会員、情報誌会員によって構成されていて、その議決機関として応援団運営委員会がありました。私も運営委員の一人でした。「この会は、グラントワが行う諸事業と連携し、県民の文化振興に対する意識の高揚を促し、同時に会員個々が自己実現と生きがいを得ることに、県民の文化・芸術の創造と発展に寄与することを目的とする」(新規約第2条)

この条文には理想と高揚感がうか

がえます。その反面堅苦しい感じは否めません。個人の希望に基づくボランティア会は、入退会自由な開かれた組織であって、その会則の条文は、簡潔で親しみやすい表現が望ましいと考えました。この全く個人的な思いから、私なりに原案を作成して事務局へ提出しました。応援団規約の条文を簡潔に改めたものが、冒頭に掲げたボランティア会会則の条文です。

原案は事務局の補足修正を経て、ボランティアリーダー会議にはかられました。17年8月8日にリーダーとサブリーダーの初会合が開かれています。「ボランティア会会則」の施行は同年10月8日です。



益田を照らして10周年!

情報発信ボランティア

山根 幹 央

グラントワ10周年おめでとうございます。私はグラントワのイベント企画・運営、情報発信のボランティアに参加しております。山根幹央です。私の出身は益田市で、今は大学に通っております。グラントワが完成した時は、私はまだ小学生でした。大きくて綺麗な、石州瓦に包まれたグラントワを見た時に、感動した記憶があります。

私は去年の5月からボランティアに参加しはじめて、1年半近く参加させていただけました。ボランティアを通して、様々な経験をさせていただきました。イベント企画・運営のボランティアでは、イベント時に来店して料理を作って販売等を行い、情報発信ボランティアでは、

本情報誌の印刷などに参加しました。ボランティアの皆さんは和気あいあいと取り組んでおられ、私にとっては大変勉強になります。イベントで出店する時には食材は積極的に益田のものを選び、地産地消と益田市の魅力を広めることに貢献されています。私はボランティアを通じて、益田市をもっと好きになりました。来年から県外で働きますが、いつか帰って来たいと思います。

私はグラントワは、イベントで県外等から来館者を集める一方、ボランティアを通して地域住民のコミュニティになっていくと思います。コミュニティができることで、地域住民同士が刺激し合い、益田市に活力をもたらしています。これからも地域住民のコミュニティであり続けるために、周知活動等を行うことで今まで以上に、より一層オープンなボランティアを目指して欲しいです。その一環として本情報誌があり、今回私の文章を載せる機会をいただけて嬉しいです。また、本情報誌が末長く発行され続けて欲しいです。これからもグラントワがボランティアの皆さんと共に、益田市を盛り上げていていただければと思います。



グラントワは実に益田の誇りと言え
る。外観は釉薬の多少によって七色
を醸し出す石州瓦で覆われ、四季や
天候によって不思議な色を放ちその
美しさの変化はどこから見ても圧巻
である。グラントワを造るに当たっ
てのエピソードを一つ。美しく焼か
れた瓦をまわりにうず高く重ねた間
から「この瓦はグラントワ全体を覆
う外壁となります。瓦の裏に自分
のお名前を記念として書かれませ
んか」。市役所からの準備員の方から話
しかけられ、これはすばらしいアイ
デアと、家族それぞれ記入した。十
年たった現在でもどこかの隅で裏
にかいてあるとはいえ、名と共に輝
きつづけるだろう。

又、完成した日から今日までグラ
ントワの館員として勤務される方々
は来館される方々を、気品に満ちた
微笑みで迎えられる姿は十年間少し
も変わらない。合わせて色々な持ち場
のボランティアがおられ、昼の時、
夜の時もいとわず、グループでより
よい方向を模索し館員の方々と支え
合って担当の仕事を大事にされる姿
は外見の美しさプラス内面の輝きに

もあらわれている。一度、グラントワ
を訪れたら誰も、まずまずの栄光を願
わずにはいられないだろう。



新米ボランティア

大浴 さより

私は益田生まれの益田育ち。でも高校
卒業後は長い間ずっと関西で暮らしてい
て、戻ってきたのは二〇〇八年。そのと
きまだグラントワは三年目だったのです
ね。たしか当時開催していた印象派展に
足を運んだのが最初だと思います。

その後は劇場へも行き、『本格的なオペ
ラやクラシックコンサートもが益田で楽
しめるなんて』といった感激したのを覚
えています。

そして数年後、子どももだいぶ大きく

なりましたので、私も何か故郷の益田
で文化的なことに関わりたいと思い、
今年四月から新しくボランティアに
参加させていただきました。申し込ん
だのはフロントと美術館です。

いざ参加してみた感想ですが、フロ
ントは正直、想像していたよりずっと
難易度の高さを感じております。要求
されているのがもう、（ボランティア
）というレベルじゃないように感じま
す。しかし先輩がたの意識は高く、真
剣に取り組んでおられる姿勢には私
も見習うべきところが多く、まだまだ
未熟ながらも頑張らねばと感じてお
ります。

いっぽう美術館はとても楽しいで
す。もともと大学で美術を専攻してい
たこともあって、作品を鑑賞しながら
学芸員さんからのお話がたくさん聞
けて、しかも質問もできるなんて最高
です！同じく絵画好きな先輩がた
のおしゃべりも楽しいです。

本番のギャラリートークはとても
緊張しましたが、好きな絵画に囲まれ
てとても幸せなひと時を過ごせまし
た。来場者の方にも「今日は楽しかつ
たわ。ありがとうね。」とおっしゃっ

ていただけて、とてもうれしかったで
す。

開館一〇周年という節目の年に、こ
のように多くの素晴らしい出会いや
体験をさせていただいていることに
は本当に感謝しております。グラント
ワは益田、島根の誇りだと思います。



「生け花ボランティア」に参加して

生け花ボランティア

宅野 智美

グラントワのホームページを見ていたら、「グラントワボランティア会

は、島根県芸術文化センター「グラントワ」が行う文化事業を支援し、同時に会員個々が生きがいを得ることを目的として活動しています。自分が「できる時間帯でのボランティア活動」を私たちと一緒にしてみませんか？」という「グラントワボランティア会」からのメッセージを見つけたのが、私がボランティアを始めるきっかけでした。

どんなボランティア活動があるのかな？まだ仕事を常勤でしている私にできる活動があるのだろうか？と思いつつ、見てみると「生け花ボランティア」：花の生けこみと花材の提供等」という活動がありました。（職場でも、玄関や受付カウンターに花を飾っている私にピッタリ！）その上、「花材が不足しているので、花材の提供だけでもOKです！」というメッセージに励まされ、すぐ、グラントワの事務

局に連絡をして参加させていただくことになりました。

「生け花ボランティア」のリーダーの伊藤さんや仲間の皆さんに教えていただきながら、一年が経とうとしています。花材の提供や生け込みの準備など、自分出来る範囲で続けさせていただいています。生け花を見て「花がきれいですね」と声をかけていただくと本当に参加して良かったと思います。《守衛室前でお花を運んでいたら、澄川センター長とお目にかかって、「いつもきれいな花をありがとうね」と励ましの言葉をいただいたこともありました。気さくに声をかけていただきうれしかったです。》その他にも、会員の皆様との会食や活動数をポイントとして貯めて特典をゲットしたり楽しいことがいろいろありました。これから仕事をリタイアして時間に余裕ができたなら、もっといろいろなボランティア活動にも参加できたらなと思っています。

また、今年「グラントワ10周年」

にあたり、いろいろな催しが企画されているなかに「県民参加『第九コンサート』」があり、『ベートーヴェンの第九』が大好きな私も合唱で参加させていただくことにしました。益田3回、松江で3回『第九』の合唱に参加していますが、何回歌っても毎回大きな感動をいただいています。ぜひ、たくさんの方たちに聴いていただいて、「10周年のイベント」が盛況でありますことを祈念して筆をおきます。

人々の心に生きるグラントワ

ギャラリートーク・ボランティア

藤山 郁子

小都市の益田に一際輝く美しさを見せて「グラントワ」は十年の年月を迎えた。教職を退いているとボランティア活動に参加して自分を鍛えたが、人生の最終段階は幼年から自分を励ました美術に関するものをと館の募集があり早速申し込むことにした。若々しい学芸員四人の方に理論と実物の絵画その他と対峙して、丁寧な研修を数日受け、十年前の十月八日、グラントワのボランティアとしての

第一歩を踏み出したのである。

他県や県内の他地区、そして益田市民が多数来館され、充実した日々を送ることが出来たことは幸せである。中でも嬉しい思い出は、山口県立美術館に出かけた時、「あら、グラントワの美術館で絵画の説明をして下さった方ではありませんか。その節はいろいろと有難うございました。又まいます、云々」。絵画を通して名も存じあげない方から感謝の言葉を頂いたことは感激であった。新しい展示物と接する機会が増すことにより心と頭脳を育てて頂くことは自分にとってすばらしい事である。



7月12日から8月にかけて、澄川喜一先生の「シンプル・イズ・ビューティフル」の企画展があった。先生は六日市町（旧吉賀町）のご出身である。高等学校を岩国市で過ごされた。そこは有名な錦帯橋がある。

この橋はアーチ橋、反り橋である。ここから先生の「反り」のある彫刻の原点が生まれたと言われている。しかし昭和25年キジャ台風により橋は崩壊し流失した。そんな悲しみを体験された。このことは先生のお話にもよく出てくる。

その後、橋は昭和28年に再建。

先生が監修された東京スカイツリーには、その立ち姿に、「反り・むくり」の形状がまさに生かされ「シンプル・イズ・ビューティフル」である。先生がこれまで制作された若い時代からの作品が一堂に集められ石見美術館での企画展であった。

日本の芸術の美の基本に「反り・むくり」の美があることを、先生の作品を通じて認識させられた。そして、私達はこれまでもシンプルな美を愛で

てきた。ところが今、豊富な物に囲まれ、消費は美德であるような生活の中で、心の美を見失いそうである。それゆえ「断舍離」という言葉も流行しているのか！

我が家はいま家中の大整理である。シンプルな生活、整理整頓のなかに想像／創造の世界が見えてくるかと・・・この展示会から学んだことはつまり「シンプルに生きよ」と言われているような気がした。

さて、8月の終わりに、ボランティア会の交流会があった。会場は大ホールのハワイエでこれまでにない賑やかなイベントだった。センター長の澄川喜一先生からの贈り物抽選イベントがあり、偶然にも、この会でビッグなプレゼントが、私のところへやって来た。



それは、先生ご自身の作である、銀色の反りのあるペンダントであった。Silver K・Sのイニシヤルが彫られている。

これを戴いたことは、ボランティア会のお蔭だと感謝している。THANK YOU！

あ と が き

グラントワ開館10周年記念行事が続いています。いわみ芸術劇場で、石見美術館で、様々な催事があって楽しみ多い芸術の秋が真っ盛りです。

記念式典のあった前日・当日の二日間に亘り【音楽の祝祭】と銘打ってクラシックの名曲の数々が演奏されました。音楽のことを表現した言葉をご紹介してみます。

母校の京都市立芸術大学で教授として教鞭を執られている世界的なフルート奏者、大嶋義実さんの言葉です。

「うまく生きる」ことには役立ち

ません（たぶん）。けれども「よく生きる」ためには欠かせないものです（ぜったい）。素敵な言葉表現だなと感じました。人生という旅路での幾つものパッセージで、心に忘れず留めておきたい言葉だと思います。

今、グラントワに行きますと、美術館横の植栽の「ハナミズキ」三本の紅葉が見事です。あの祈りの歌が聴こえてくるようです。これからの新しい10年もグラントワで音楽を楽しんだり、美術作品を観たりして心豊かな時間を過ごしていきたいと思えます。

（陽 窃）

